

碁將碁に幾ばんといふばんの字を番と書は誤也、一枰二枰など枰の字を書べし、舊本今昔十二卷卅三語に、碁一枰打ト弱氣ニ云バ云々とあり、

〔江家次第第二月〕列見

事畢公卿自後戶出著朝所○中四獻此以後用土器居餅饌、大辨拔著執笏候氣色、上卿不拔箸不執笏

許、或上古此間有圍碁事

頭書 圍碁召公卿若辨少納言中能碁之輩圍之○中其儀六位外記二人持碁盤居上二枰置公

卿座東二枰東西相對史二人取菅圓座四枚敷碁枰南北上首二人居北圓座上首把黑下薦把白公卿以

下移著碁所相分爲念人云云、

〔圍碁式〕向局事

先石のふたをあけて、黒きを敵のかたへやりて、白を我は取べし、

〔大諸禮〕萬躰方の次第

一主人碁をあそばし候は、碁盤をなをす時、賞翫の方へ黒を置べし、但夜は白あがりたるべし、

何も陰陽の心得也、去ながら又は主人の御意にもまかすべし、

〔今川大雙紙上〕躰式法の事

一主人と碁雙六參る事、主人には白石にてうたせべし、其故は夜るなど參には、我が石にまぎる

るゆへ也、

〔宗五大草紙上〕色々の事

一圍碁は百目宛を春夏秋冬にあつる物也、さて貴人と碁を參らん時は、盤の上にニッ候ごげを

御好みにまかせて御取候時、殘たるを可給、こなたより參らせば、白を進すべし、

〔酌并記三〕一碁盤將碁盤持て出る事